

顕彰状

趙錫來氏は、1935年11月19日、大韓民国慶尚南道咸安に生まれた。1959年、早稲田大学第一理工学部応用化学科を卒業後、米国イリノイ工科大学大学院に進学し、化学工学修士を取得した。

1966年に暁星物産管理部長を経て建設本部長となった氏は、暁星の成長の足場となる東洋ナイロン蔚山工場を設立し、ナイロン原糸事業を世界4位に育て韓国の繊維産業を復興させた。現在でも最先端の革新工法を持続的に導入することによって、韓国化繊産業の工程革新及び生産技術発展をリードしている。さらに、持続的な競争力確保のために独自の技術確保が必要であるという信念に基づき、民間最初の技術研究所を設立して技術開発に励み、超極細複合糸、高機能透湿防水布、マイクロファイバー等、数多くの新製品開発と技術発展を成功させた。その結果として1975年にポリエステル工場を竣工して工場を稼働し始めると製品の優秀性に対する賞賛の声が上がった。暁星はこのときから化繊産業のリーダーとしての確固たる立地を固めることができた。

氏は亡父の育英事業への崇高な遺志を受け継ぎ、東洋学院理事長として人材養成に心血を注ぎ、東洋工業専門大学を国内トップの専門技術人力養成教育機関とするなど教育者としても貢献は多大である。

こうした功績により、1989年に産業界の第1級勲章である金塔産業勲章、1994年には韓国能率協会から経営者賞等を受賞するなど数々の賞を受賞されている。

また、韓国と日本の緊密な友好協力関係の増進のために、韓日財界会議、韓日経済人会議、韓日フォーラムなどのリーダーとして、両国財界人たちに2002年ワールドカップ共同開催を提案し成功させるのに主導的な役割を果たし、韓日関係上歴史的な転換点を用意することに寄与した氏の功績は特筆すべきものである。また、現在氏は、韓日共同の発展のために両国間の自由貿易協定(FTA)を強く主唱して、最近それを政府間の協議レベルにまで導き出すのに貢献された。さらに東北アジアの共同繁栄のための韓・日・中 FTA 締結のために努力している。

早稲田大学においては、1993年から韓国校友会会長、2000年から商議員、客員評議員として本学の発展に多大なる貢献を果たしている。早稲田大学 125 周年記念事業として2004年3月大隈庭園に韓日両国の友好関係発展を祈願する鐘樓を建設し、早稲田人たちが末長く母校を振り返ることができるのも氏が会長を務める韓国校友会の全面的な支援があったことによるものである。2004年11月には早稲田韓国校友奨学財団を設立し、母校に学ぶ韓国留学生に財団から奨学金を支給するとともに個人的に奨学金支援を行い、留学生たちが学業に邁進できるような手助けをしている。

ここに早稲田大学総長・理事・監事・評議員ならびに全学の教職員は一致して

趙 錫 來 氏に

名誉博士 (Doctor of Science) の学位を贈ることを決議した。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

(*Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!*)

2005年3月25日

早 稲 田 大 学